

ユーラシアを歩く会 行動報告書

The Trans-Eurasia Walking Journey Program

1. 計画コース概要

提出日: 2010.11.23

地域分類	ヨーロッパ・中央アジア・東アジア	区間番号	西部 1
国名	日本	実施期間	1010.10.25 ~ 10.31
計画区間	出発地 長崎県 対馬 到着地 福岡県 博多	参加人数	7名

2. メンバー表

No	役割・分 担	氏 名	行き	帰り	
1	リーダー	荒井 龍男	出発日	10/25	10/31
2		横山 泰一	出発場所	東京・京都・神戸	博多近郊歩行後 自由解散
3	記録係	栗田 宏和	到着場所	対馬/厳原	
4		結城 皖曠	使用便名	sky001/sky007・新幹 線等	
5		高平 仁雄		博多・厳原間はジェット ホイル便	
6		松見 豊和	航空会社	スカイマーク	
7	会計係	久藤 宜機	フェリー会社	九州郵船	

3. 現地での歩行結果

	年月日	国名	出発～到着	区間距 離 Km	天候	気温 最低/ 最高
1日目	1010/10.2 5	日本	自宅各地～対馬/厳原集合	0	曇り	
2	10.26	“ 対馬	A班;大浦 9:30～韓国展望所～佐 須奈 14:35 B班;佐須奈 9:20～恵古～仁田 14; 55	12km 19km	曇り、 強風	寒い
3	10.27	“ “	A班;仁田 8:50～三根～田 14:30 B班;田 8:25～仁位～万関 14:55	21km 21km	曇り 時々 雨	寒い
4	10.28	“ “	A班;万関 7:50～高浜～厳原 14:45 B班;厳原 7:00～佐須瀬～豆酸 13; 30	18km 21km	曇り 強風	寒さ 和ら ぐ
5	10.29	“ 壱岐	対馬の厳原港→ジェットホイル→壱 岐の郷ノ浦港		曇り 時々	18℃ 位で

			A班;勝本港 10:15~郷ノ浦 16:20 B班;初瀬 9:50~郷ノ浦 13:50	15km 7km	晴れ 強風	快適
6	10.30	“ 唐津	唐岐の印通寺港→フェリー→福岡 の唐津港 A班;呼子港 12:30~西唐津駅 16: 30 B班;西唐津駅 10:40~鹿家~福吉 駅 16:40	16km 18km	曇り 強風	18℃ 位で 快適
7	10.31	“ 博多	A班;福吉駅 8:30~加布里駅 11:15 B班;加布里駅 8:15~今宿駅 11:10 C班;今宿駅 9:00~博多駅 13:30	12km 12km 14km	曇り 一時 雨	18℃ 位

区間概念図



4. 見聞録

ルートの状況

10/26 の歩行は宿泊地の巖原からバスに乗り、対馬最北部の鰐浦に行き、韓国展望台から国道 382 を南下する。

大浦湾、佐須奈湾では海沿いになるが、あと殆どは山の中の道となる。歩道の有るところ、無いところが断続する。人気は少なく、道沿いにシイタケ栽培のホダ木の列が続く。時々蜂蜜の巣箱が点在する。

10/27 の歩行は対馬中央部となり、国道 382 を南下する。この日も山中の国道歩行がメインとなる。交通量は少ないが道は良く整備されている。ショートカットに新道が付け替えられ、トンネルが新設されたりしている。

10/28 の歩行は対馬南部となる。A 班は万関橋から国道 382 を南下して巖原まで、B 班は巖原から県道、地方道を南下して対馬南のゴールの豆碓までの歩行である。巖原に近づくとつれ店舗、交通量が多くなる。海岸の見晴らしの良い所はお土産物屋が建つ。この日も山中の道を歩き、時折海岸の景色に出会い癒される。

10/29 は対馬の巖原港からジェットホイルで壱岐の郷ノ浦港に移動する。台風の影響で壱岐は芦辺港着から郷ノ浦港に変更になった。

バスで勝本港まで行き、国道 382 号線を南下する。チームとしては壱岐南端の初瀬がゴールである。主に山中の道となるが、対馬と違って丘陵地帯の風景である。

10/30 は壱岐の印通港からフェリーで佐賀県の唐津港に移動するが、波風が強く揺れる、船室の窓にもしぶきがかかる。

呼子港から国道 382、国道 204、国道 202 を通って東に向かう。道路の状況は良くなり、交通量、観光客も多くなる。立神岩、虹の松原等の海沿いの観光地を通る。

10/31 は国道 202 を東方へ歩行し、博多駅がゴールとなる。筑肥線に沿った唐津街道を歩く。家並も多くなり、車が圧倒的に多くなるが歩道も有るので横断に気を付ければ OK。今回初めてキロポストに出会う。

自然環境

対馬は九州本土より朝鮮半島に近く、対馬海流に洗われている。冬は雪も降るが余り積もらないと聞いた。暖流の対馬海流のせいもある。陸地は山がちで田畑は少なく、昔より漁業が主な生業である。山深い林に天然記念物のツシマヤマネコが生息する。道路に「ツシマヤマネコ飛出し注意」の標識が立っている。リアス式の海岸は天然の良港となって入り江は風波を避けた漁港となっている。

山中はシイタケ栽培に適した環境で道路に平行した山中にホダ木がズラーと続く。大分県に続く出荷量だそうで「シイタケの里」の看板も見かけた。また、各家には自家用の蜂蜜の巣箱を持っており、山中に散見される。

一方、壱岐の島は丘陵と言ってよく、漁業と共に昔より農業が行われている。地名には「触」がつく地名が多く、封建制度を色濃く反映したまま残している。江戸時代には松浦藩の米櫃だったらしい。

人々の生活

対馬、壱岐とも大陸、朝鮮半島との文化交流の通り道であり、太古からの人の営みの歴史が遺跡や史跡となって散見された。どういう訳か対馬の遺跡は大陸に面した西側に多数有るように思う。

島は台風が通過すれば風が強いだらう、家々は山に囲まれた地を選んでいるし、海岸際の家は石垣で囲んでおり、屋根瓦には石を乗せている。対馬空港前には石屋根の家が観光用として展示している。対馬は伝統的に漁業が主な生業であり、集落は港周辺に固まる。農村ではお城かと思えるような立派な家が多い、家にお金をかける人が多いという。また、農家には「小屋」と言っていたが高床式の倉庫を各家で持っていたのが特徴的だ。米とか布団とか入れると言っていた。

壱岐の勝本港は漁船も多く整備され、活気があった。大型の漁船は北海道まで遠征していくと聞いた。

食べ物・酒・その他

今回はグルメの旅でもあった。対馬の初日は寿司屋で「地の刺身、粗炊き、地物の寿し」。二日目は魚、野菜を熱した石で焼く名物の「石焼」(途中で頂いたどんこのシイタケが絶品であった)、三日目は京都料理系らしいが名物の「いりやき鍋」、四日目は居酒屋で地の刺身などお好みで、五日目の壱岐では勝本漁港で昼食にシーズン最終の赤うにの「赤うに丼」、夕食は「壱岐牛のステーキ」。六日目は呼子で昼食に活作りの「イカ丼」、夕方に博多で TMU の OB 会九州支部とで交歓宴会。摂取カロリーは歩いて消費したカロリーを上回ったかもしれない。

対馬での名山は白山、その名を冠した焼酎が売られている。壱岐では郷ノ浦の町でメンバーの一人が 35 度の焼酎が欲しい酒屋に寄った。7 件有る蔵元の内、一番規模の小さい天の川酒造で「天の川」を購入した。そこの若旦那は自信と誇りを持って商品の説明をしてくれた、清々しい。

5. 人々との交流の記録

対馬では皆さん人懐っこく親切だった。

港では「シイタケの里」と宣伝している。歩行初日にシイタケの作業場で休憩中の奥様に通過証明をお願いした時、活動にご賛同頂いたのか袋一杯のどんこ椎茸を頂いた。それを石焼で焼いて頂いたがプリプリして絶品だった。

対馬では料理屋で今が収穫期の対馬蜂蜜を舐めさせてくれた、美味い。各家庭でマイ蜂蜜巣箱を持っているという。バスを待つ間に酒屋で油を売っていたら、自分用の蜂蜜を小分けしてくれる事になり、ご主人は店の裏手のマイ蜂蜜巣箱を見せてくれた。メンバーとも波長が合い、自慢話はローカル色豊かで聞いていて楽しい。巖原の民族資料館に見学に行った。メンバーの質問に職員が答えられず、館長にお出まし頂いた。職員さん、勉強不足かも。

壱岐では勝本港の食堂に入り「赤うに丼」を注文したが、おまけに「ひじきの小鉢」「冷奴」を付けてくれた。帰りには歩きながらつまみなさいと「イカの一晩干しの炙り」をビニール袋で頂いた、気前がいい。

松見さんは色んな方と出会った。壱岐で若い頃旅して、ひよんな事から女学生の

お宅に民宿させて貰い、今回その方とお会いした。唐津では京都での県人会の関係から佐賀新聞の取材を受け、翌日にユーラシアの歩行の話と歩行写真が共に掲載された。唐津では小学校時代のお友達と何十年か振りに再会した。

博多では TMU の OB 会九州支部と懇談会を持った。そこで栗田は TMUWV 同期（14期）の中拂氏と35年振りに再会した。

6. 健康・安全面の記録

リーダーの荒井氏が途中で膝の痛みから歩行を中断したが、最終日に復帰した。

都市部に近づくと車の往来が激しくなるが、歩道の無い所もあり、接触事故の可能性も出てきている。

今回、台風の余波を受けて唐津行のフェリーは大型船のみの運行であった。フェリーは揺れが大きく船室の窓にしぶきが掛かる事もあった。安全面は大丈夫だと思ったが離島などには余裕を持った日程計画が必要であると実感した。

7. 総費用

個人	渡航費	45,530
	宿泊費	25,300
	食費	31,000
	その他	5,000
	合計	106,830

グループ		
	合計	

費用は、出発地が関東、関西に散在するので、個人は栗田を例として概算を記す。

グループとしての発生費用は無いので、参加7名では栗田の例の7倍弱程度と思われる。

8. 記録写真・ビデオなど

写真の一部を添付する。

ビデオは荒井リーダーが撮っているが、途中でカメラが不調となり対馬途中までの撮影となっている。

写真1 参加メンバー、巖原初日



写真2 対馬、佐須奈漁港



写真3 対馬、三根の山辺遺跡



写真4 対馬、万関橋付近からの白岳、金田城遺跡方面



写真5 対馬、厳原港から壱岐へ渡る



写真6 壱岐、双六遺跡



写真 7 呼子から西唐津への途中、立神岩を見ながらの歩行



写真 8 博多、TMU九州支部との懇親会

